

第 5 期科学技術基本計画における戦略的国際展開の課題について

平成 28 年 11 月 17 日

国際 G

(背景)

1. 「戦略的国際展開」の構造

第 5 期科学技術基本計画は、「国際」を計画の全体に通ずる重要な視点として位置付けたことに特徴を持つ（これまで第 1 期から第 4 期までは「国際」を章立てしていた。）。国内成長とともに、世界の発展に貢献することを宣言。

科学技術イノベーションは、

- 国内外の持続的かつ包摂的な発展に貢献できるのか。
- グローバル化の進展に伴い、国家間の相互依存関係は更に深まり、各国が抱える様々な課題は地球規模課題へと瞬時に発展する。
- このため、第 5 期科学技術基本計画では、国際協調の中にも戦略性を持って科学技術イノベーションを活用し、国内外の課題の解決を図る。

ことを前提として「計画」を構成。

(現状の検証)

2. 検証すべき視点

国際舞台においてリーダーシップを発揮すべく、国際機関や国際会合の場を活用、または、二国間、多国間等の国際協力を戦略的に推進できているか？

→国際機関、国際会合の活用と具体的な国内展開は連動できているか？

→各省で実施されている施策は、国際協力、国際貢献できているか？

→国際的にみた国内の取組（個別施策）は十分か？

(今後の検討)

3. 検討すべき課題

- ・ 外交・政治的観点から捉えた科学技術の戦略的国際展開
 - 国際機関、国際会合の活用、SDGs、COP21 などの国際的課題に対する対応
 - 二国間、多国間等の国際協力の推進
 - 日本の取組の発信と国際協調（リーダーシップの発揮）
 - 国際動向と国内枠組のギャップへの対応
- ・ グローバルな科学技術人材の育成、女性の活躍促進
- ・ 世界のトレンドへの対応（国際動向の把握・分析機能の強化） など